

介護福祉士ファーストステップ研修の受講意識と 課題抽出に関する研究

—介護福祉士を対象とした共起ネットワーク分析から—

牛田 篤

福山平成大学 福祉健康学部
(福祉学科)

E-mail : a-ushida@heisei-u.ac.jp

【要旨】

本研究の目的は、A県内特別養護老人ホーム19施設に勤務する介護福祉士ファーストステップ研修（以下「ファーストステップ研修」という）未修了の介護福祉士232名を対象とし、ファーストステップ研修の受講意識とその理由を明らかにする。そして、ファーストステップ研修の課題抽出を行う。

本調査では、受講希望32名、非受講希望22名、どちらともいえない82名の計136名から、その理由に関する自由記述の回答を得た。本調査について共起ネットワーク分析から、希望理由では「介護福祉士」「専門性」「リーダー」「高める」「必要」「学ぶ」等に強い共起性が抽出された。どちらともいえないでは「ファーストステップ研修」「内容」「分からない」等の強い共起性が抽出された。また、「受講」「負担」「必要性」等との強い共起性も抽出された。非受講者では「ファーストステップ研修」「分からない」や「介護」「従事」「ない」との強い共起性が抽出された。さらに「研修費用」「高い」や「受講時間」「調整」「難しい」に強い共起性が抽出された。

本研究から、受講希望する介護福祉士は、現在のファーストステップ研修に対して、リーダーや介護福祉士の専門性を高めるための学びの視点があると考えている。一方、9割程度の介護福祉士は、事前課題や事後課題を含めて200時間受講することが負担、研修内容を知る機会がなくて分からない、受講の必要性、研修費用が高い、受講時間の調整の難しさという視点が主なファーストステップ研修の受講課題だと考えており、それらの課題に関する改善策の検討が必要と考える。

KEY WORDS : 介護福祉士 介護福祉士ファーストステップ研修 課題抽出

1. はじめに

2015年8月20日の介護人材確保地域戦略会議第3回資料において、厚生労働省では、「介護人材確保の総合的・計画的な推進」として、介護人材に関して「まんじゅう型」から「富士山型」へのビジョンを示し、具体的な施策検討が進められている。「まんじゅう型」の介護人材から「富士山型」の介護人材への全体像は、図1の通りである。「まんじゅう型」と示される要因については、主に介護に関する複数の資格が存在しているなかで、介護人材の「専門性が不明確・役割が混在」「将来展望・キャリアパスが見えづらい」という課題が挙げられているからである。また、「富士山型」を示す目的としては、介護人材の量的確保から、すそ野を拓げるために多様な人材（就業していない女性、中高年齢者、若者等）の参入促進を図っている。同時に労働環境・処遇の改善および資質の向上として、介護福祉士には、多様な介護人材の中核的存在、介護現場におけるマネジメントのできるリーダー的存在を担うことが期待されている。

前述の課題改善について、公益財団法人日本介護福祉士会では、公式ホームページ上にて介護福祉士の専門性について「利用者の生活をよりよい方向へ変化させるために、根拠に基づいた介護実践とともに環境を整備することができること」と示している。さらに具体的には、①介護過程の展開による根拠に基づいた介護実践（利用者の自立に向けた介護過程を展開し、根拠に基づいた質の高い介護を実践する）、②指導・育成（自ら介護等に関する知識及び技能の向上に努めるだけでなく、自立支援に向けた介護技術等、具体的な指導・助言を行う）、③環境の整備・多職種連携（離床者の心身その他の状況に応じて、福祉サービス等が総合的かつ適切に提供されるよう、物的・人的・制度的等、様々な環境整備を行うとともに、福祉サービス関係者等との連携を保たなければならない）を挙げている。また、将来展望・キャリアパスにおいては、2016年8月以降から介護福祉士の生涯研修体系を介護福祉士基本研修、介護福祉士ファーストステップ研修（以後、ファーストステップ研修）、認定介護福祉士として位置づけて、「富士山型」の構築を目指している。そして、2017年9月においても各研修は、図2の通り示されて現在に至る。「富士山型」の構築に向けて介護福祉士基本研修は、全県で開講されている。次にファーストステップ研修は、複数の都道府県において不開講の状況があり、各県によって開講状況、受

講料や受講者数にも格差が生じている。ファーストステップ研修に関しては、小規模リーダーの育成を目的とする研修であり、介護福祉士取得後のキャリア形成に向けて、表1のカリキュラムを研修する。カリキュラムは「ケア」「連携」「運営管理基礎」を事前課題と事後課題を含めて200時間行うことによって修了する。認定介護福祉士の前段階研修として推奨されている研修である。近年、ファーストステップ研修に関する研究は、野田（2017）が実施した修了者の追跡調査では有効性が検証されている。しかし、ファーストステップ研修について、複数の都道府県において不開講の状況となる理由の一つとして、受講者が研修開講定員に満たされないため、不開講となる状況が生じている。

そこで本研究の目的は、A県内特別養護老人ホームに勤務するファーストステップ研修未修了の介護福祉士232名を対象とし、ファーストステップ研修に関する受講意識とその理由を明らかにする。そして、ファーストステップ研修の受講意識の類型化および受講課題を探ることである。その際、ファーストステップ研修の受講意識について、自由記述から共起ネットワーク分析を行う。



図1 「まんじゅう型」の介護人材から「富士山型」の介護人材への全体像

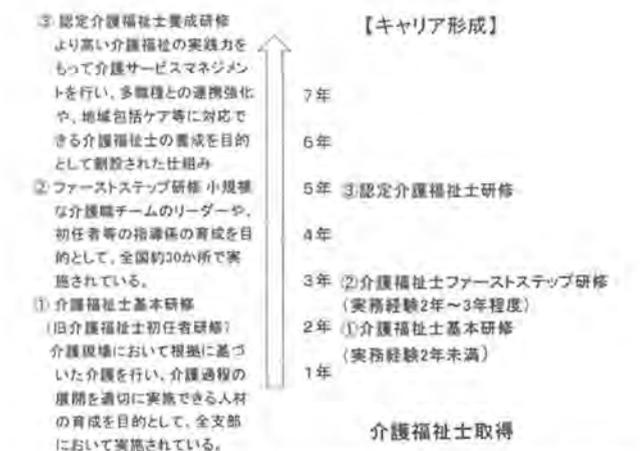


図2 公益財団法人日本介護福祉士会の示す生涯研修におけるキャリア形成体系

出典：第11回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 平成29年9月26日「求められる役割に適切に対応できる介護福祉士の育成方策」 公益社団法人日本介護福祉士会会長 石本淳也委員提出資料)

注釈：旧介護福祉士初任者研修は、社団法人日本介護福祉士会初任者研修テキストを使用し、3日間で倫理、コミュニケーション、介護技術、記録・報告、福祉用具などの介護現場に必要な知識と技術を学ぶ研修である。介護福祉士を取得して実務経験2年未満の初任者に推奨される研修である。現在では、介護福祉士基本研修に変更し、各都道府県の介護福祉士会で開催している。

表1 介護福祉士ファーストステップ研修のカリキュラム

領域(合計時間数)	科目	時間数
ケア領域 (72時間)	利用者の全人性、尊厳の実践的理解と展開	16
	介護職の倫理の実践的理解と展開	16
	コミュニケーション技術の応用的な展開	16
	ケア場面での気づきと助言	24
連携領域 (48時間)	家族や地域の支援力の活用と強化	16
	職種間連携の実践的展開	16
	観察・記録の的確性とチームケアへの展開	16
運営管理基礎領域 (80時間)	チームのまとめ役としてのリーダーシップ	16
	セーフティマネジメント	16
	問題解決のための思考法	16
	介護職の健康・ストレスの管理	16
	自職場の分析	16

II. 目的

本研究の目的は、A県内特別養護老人ホームに勤務するファーストステップ研修未修了の介護福祉士232名を対象とし、ファーストステップ研修に関する受講意識とその理由を明らかにする。そして、ファーストステップ研修の受講意識の類型化および受講課題を探ることである。

III. 方法

1. 対象：本研究では2016年3月時点におけるA県全ての特別養護老人ホーム105施設に協力依頼し、19施設232名のファーストステップ研修未修了介護福祉士から回答を得た。これを分析対象とする。本研究は先行研究「特別養護老人ホームにおける介護福祉士のキャリア形成と実践に関する研究—ファーストステップ研修と求められる介護福祉士像12項目の意識調査から—」(2018牛田)と同じ対象者である。

2. 調査方法：本研究を進める際、前述の先行研究にて協力を得た19施設の特別養護老人ホームに自記式質問紙調査する。その際、A県内の特別養護老人ホームに勤務する19施設232名のファーストステップ研修未修了介護福祉士(ファーストステップ研修受講希望者43名、どちらともいえない152名、非希望者36名)から、ファーストステップ研修の受講意識の回答について、その理由を自由記述で回答を得る。

3. 調査実施期間：2016年3月1日～7月31日

4. 調査内容：先行研究にて協力を得たファーストステップ研修未修了の介護福祉士232名に対して、ファーストステップ研修の受講意識に関する理由について自由記述にて質問する。

倫理的配慮：本調査に際しての倫理的調査は以下の通りである。

5. 倫理的留意①調査実施に際して、富山福祉短期大学の倫理委員会より承認を得ている(承認番号：福短H27-026号)。②対象者となる各特別養護老人ホームの介護福祉士に対しては、書面にて事前説明する。対象者に対する本研究の同意は、調査用紙の返信を持って本人の同意とする。③本調査は無記名であり、さらに同意を得た施設が特定されることのないように本調査データを取り扱う。④対象者のプライバシー保護に留意し、データ管理責任者を決めて一元的に管理を行う。

6. 分析方法：回答を記述統計する。さらに、KH Coder2を用いて共起ネットワーク分析を行う。

IV. 結果

本調査から、「受講希望者」は43名のうち、32名から理由に関する自由記述回答を得た(回答率74.4%)。自由記述の総抽出語数は400であり、異なり語数は149であった。分析に使用する語は400語(異なり語数149)とした。異なり語数149語について、出現回数の平均は2.68、標準偏差4.28であった。これらの頻出語の内、出現回数の多い20語の抽出語とその出現回数は、表2の通りである。出現回数の多い語は、「思う」「自分」「スキルアップ」「研修」「仕事」等であった。

表2 受講希望者の抽出語および出現回数

抽出語	出現回数
思う	9
自分	7
スキルアップ	6
研修	6
仕事	5
介護	4
今後	4
受ける	3
ステップ	2
リーダー	2
介護福祉士	2
介助方法	2
学ぶ	2
高める	2
自己	2
自身	2
専門性	2
提供	2
必要	2
良い	2

受講について「どちらともいえない」回答者153名のうち、82名から理由に関する自由記述回答を得た（回答率53.6%）。自由記述の総抽出語数は946であり、異なり語数は242語であった。分析に使用する語は946語（異なり語数242）とした。異なり語数242語は、出現回数の平均3.91、標準偏差7.37であった。これらの頻出語の内、出現回数の多い20語の抽出語とその出現回数は、表3の通りである。出現回数の多い語は、「分からない」「研修」「ファーストステップ研修」「ない」「内容」等であった。

「非受講希望者」36名のうち、22名から理由に関する自由記述回答を得た（回答率61.1%）。自由記述の総抽出語数は247であり、異なり語数は90であった。さらに、分析に使用される語として248語（異なり語数90）が抽出された。分析に使用する語は248語（異なり語数90）とした。異なり語数90語は、出現回数の平均2.76、標準偏差2.96であった。これらの頻出語の内、出現回数の多い20語の抽出語とその出現回数は、表4の通りである。出現回数の多い語は、「ない」「ファーストステップ研修」「分からない」「研修」「思う」「従事」等であった。

表3 どちらともいえないの抽出語および出現回数

抽出語	出現回数
分からない	34
研修	26
ファーストステップ研修	18
ない	17
内容	10
時間	7
受ける	7
受講	6
ファーストステップ	5
現在	5
思う	5
現場	4
考える	4
仕事	4
自分	4
働く	4
難しい	4
必要	4
必要性	4
負担	4

表4 非受講希望者の抽出語および出現回数

抽出語	出現回数
ない	10
ファーストステップ研修	6
分からない	6
研修	4
思う	4
従事	4
介護	3
長い	3
必要	3
学ぶ	2
感じる	2
研修費用	2
現場	2
高い	2
資格	2
取得	2
受ける	2
受講時間	2
調整	2
内容	2
難しい	2

さらに前述のファーストステップ研修受講に関する「受講希望者」「どちらともいえない者」「非受講希望者」の理由について、前述の各表の抽出語が含む文章を分析対象として共起ネットワーク解析した結果、図3、図4、図5の通りである。希望理由の自由記述では、「介護福祉士」「専門性」「リーダー」「高める」「必要」「学ぶ」や「良い」「提供」「ステップ」に強い共起性が抽出された。どちらともいえない理由の自由記述で

や介護福祉士のキャリア形成研修の体系とそれらの研修を受講した効果が十分に周知されておらず、介護福祉士取得者に対して認識されていない状況であると考え。また、「現在」「受講」「負担」「必要性」や「働く」「必要」との共起性も強いことから、現在受講する必要性や働く上で必要であるか、受講判断において受講の必要性の高さという視点が示唆された。本結果については、ファーストステップ研修に関する研修内容そのものが分からないため、ファーストステップ研修の受講について必要性が分からず、負担の方が気になり、どちらかともいえない回答者が多くなったと推察する。ファーストステップ研修は、小規模リーダーとしてユニットで勤務する際に配置基準や加算対象として必要な研修であるか、修了した介護福祉士の処遇改善として給与に反映されるか等、200時間の研修を受講するからこそ、そのあたりを明確にすることが求められていると考える。

非受講希望者については、抽出語と出現回数では「ない」「分からない」「ファーストステップ研修」が顕著であり、「分からない」「研修内容」との強い共起性から、どちらともいえないと回答した介護福祉士と共通性が明らかになった。さらに、「介護」「従事」「ない」との強い共起性が抽出されたことから、介護福祉士を取得しているが、介護の職種ではなく、他の職種や職位であるため受講しないということが示唆された。介護福祉士のキャリア形成では、実務経験5年以上になると、ケアマネジャーを取得し、介護職ではなく相談職になる傾向である。または主任、課長等となり管理職になり介護職から離れる実態であるため、介護福祉士取得者に調査したからこそその結果である。ただし、前述のキャリア形成に該当する介護福祉士の割合以上に、介護福祉士の実務経験5年以上の中堅や熟練、そこからリーダー又は達人となり、特別養護老人ホームにて介護職として勤務する介護福祉士が存在する。したがって、介護福祉士は介護職として働きながらファーストステップ研修を修了し、「ケア」と「連携」、さらに「運営管理基礎」の知識と技術を身につけてキャリア形成していく体制を構築することが介護福祉士の社会的評価の向上に寄与すると考える。しかし、働きながらという際、「研修費用」「高い」や「受講時間」「調整」「難しい」においても強い共起性が抽出されたことは、ファーストステップ研修受講において大きな課題といえよう。

よって、本研究からは約1割から2割程度の介護福祉士には、現在のファーストステップ研修に対して主体的

であり、介護福祉士のリーダーや専門性を高めるために必要だから学ぶといった介護福祉士の社会的評価の向上という視点と、自身をスキルアップしながらより良い介護の提供という介護福祉士の資質向上の視点があると考え。一方、9割程度の介護福祉士には、研修内容を知る機会がなくて分からない、受講の必要性の高さ、研修費用が高い、受講時間の調整の難しさという視点が主なファーストステップ研修の課題であり、それらの課題に関する改善策の検討が必要であるといえよう。

VI. おわりに

日本の介護人材の動向においては、2025年に向けて多様な介護人材の確保が急務である。その為、ますます「まんじゅう型」の介護人材となるか、「富士山型」を構築できるかは重要な時期である。同時に、多様な介護人材の介護現場におけるマネジメントのできるリーダー的存在の確保も重要であり、国家資格の介護福祉士にますます期待される時期である。一方、介護福祉士誕生後、現在までの取得ルートや条件は多様であり、介護福祉士取得者の大部分はマネジメントやリーダーに関する教育又は研修を受けていない。他の専門職に比べて、介護職として特別養護老人ホームに勤務する介護福祉士は、各自の取得時の年齢に幅広き差がある。キャリア形成に対する意識、職位階層、パートタイムによる非正規雇用での勤務状況、同じ実務経験年数であっても私生活の状況については育児する世代、介護する世代等多様である。ファーストステップ研修の受講意識に関して、本研究では、「ファーストステップ研修」「分からない」が顕著である。しかし、記述統計および共起ネットワーク分析の結果からは、主な課題を抽出に過ぎない。そのため、働きながらファーストステップ研修を受講する際、前述の課題改善の方策については、職能団体からのファーストステップ研修の推奨リーフレット、受講案内チラシやホームページ等の周知強化のみでは困難と推察する。

本研究はA県全ての特別養護老人ホームおよび地域密着型特別養護老人ホーム105箇所に協力依頼し、19施設232名の介護福祉士から同意を得た自由記述を分析している。本研究について、より信頼性と妥当性を高めるため、様々な年代における特別養護老人ホームの介護福祉士に対するインタビューを実施し、より具体的な追跡調査が必要である。また、他県の介護福祉士との比較による検討がない点は研究の限界である。今後の介護福

社士のキャリア形成、介護人材における「富士山型」の構築に向けたファーストステップ研修に関する研究については、各都道府県の介護福祉士会会長や特別養護老人ホームの施設長に対してもインタビュー調査を実施し、その結果からより多角的に検討することが必要といえよう。

VII. 参考文献

- 1) 厚生労働省『介護福祉士及び社会福祉士制度の在り方に関する意見』社会保障審議会福祉部会 平成18年12月12日
(<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/12/dl/s1212-4b01.pdf>)
- 2) 社会福祉法人 全国社会福祉協議会(平成20年9月)『介護職員のキャリア形成支援の制度化に向けた提案 小規模チームのリーダー養成等を目的とした「介護福祉士ファーストステップ研修」』
(http://www.shakyo.or.jp/news/081113_2.pdf)
- 3) 社会福祉法人 全国社会福祉協議会(平成21年3月)『小規模チームのリーダー養成を目的とした介護福祉士ファーストステップ研修 ガイドライン～研修の企画、展開の指針』
(http://www.shakyo.or.jp/research/05_pdf/final_1ststep.pdf)
- 4) 中司登志美(2009)「介護福祉士現任者教育の抱える課題 介護福祉士ファーストステップ研修(広島県)をふまえて」『福祉健康学科研究 福山平成大学健康福祉学部紀要』4巻1号, 1-8
- 5) 岡田史(2011)「介護福祉専門職育成における専門職団体の役割と課題—新潟県介護福祉士会会員の研修ニーズに関する意識調査から」『新潟医療福祉学会誌』10巻2号, 4-9
- 6) 厚生労働省『福祉人材確保対策検討会における議論の取りまとめ』第1回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 平成26年10月27日資料3
(http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000062880.pdf)
- 7) 厚生労働省『介護人材の機能とキャリアパスについて』第6回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 平成28年10月5日資料1
(http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000138946.pdf)
- 8) 厚生労働省『介護人材の機能に応じた育成のあり方について』第7回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 平成28年11月14日資料
(http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000142796.pdf)
- 9) 厚生労働省『介護人材における介護福祉士の役割に係る意見書』第7回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 平成28年11月14日参考資料2(公益社団法人日本介護福祉士会 会長 石本淳也)
- 10) 厚生労働省『介護人材の機能とキャリアパスの実現に向けて』第8回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 平成28年12月13日資料1
(http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000145742.pdf)
- 11) 厚生労働省『求められる役割に適切に対応できる介護福祉士の育成方策』第11回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 平成29年9月26日石本委員提出資料(公益社団法人日本介護福祉士会 会長 石本淳也委員)
(https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000178750.pdf)
- 12) 公益社団法人日本介護福祉士会(2014)『介護福祉士基本研修テキスト』中央法規
- 13) 野田由佳里・太田貞司・及川ゆりこ・鈴木俊文(2017)「ファーストステップ研修修了者追跡調査による研修効果及び介護職チームのリーダー・中堅介護福祉士の役割に関する研究」『聖隷クリストファー大学社会福祉学部紀要』15巻, 81-95
- 14) 太田貞司(2017)「介護職の職能集団の形成とチームリーダー」『京都女子大学生生活福祉学科紀要』12巻, 15-27
- 15) 牛田篤(2018)「特別養護老人ホームにおける介護福祉士のキャリア形成と実践に関する研究—ファーストステップ研修と求められる介護福祉士像12項目の意識調査から—」『福祉健康学科研究 福山平成大学健康福祉学部紀要』13巻1号, 39-46
- 16) 下山久之(2018)「介護保険施設における職位階層とキャリアパスモデルの実体と課題」『介護福祉研究』23巻1号, 80-86

A Study on Certified Care Workers in Problem Extraction of First Step Training
—From Co-occurrence Network Analysis on Certified Care Worker's—

Atsushi USHIDA

Department of Welfare Science,
Faculty of Welfare and Health Science,
Fukuyama Heisei University

Abstract

A study on certified care workers in problem extraction of first step training.

This research for 19 nursing homes in A prefecture.

And it is a survey with 232 certified care workers.

In this research we got a response from 136 certified care workers.

From this study, the consciousness and the reason of first step training were clarified.

The problem of first step training is the difficulty of adjusting the attendance time, attendance burden, inadequate knowledge of the training content, need for attendance, high training costs.

KEY WORDS : certified care worker certified care workers first step training
Problem Extraction